

外国語活動

外国語活動では、他教科との学習内容の関連を図る際、どのような工夫をすればよいか。

3-1-(4) 指導内容や活動については、児童の興味・関心にあったものとし、国語科、音楽科、図画工作科などの他教科等で児童が学習したことを活用するなどの工夫により、指導の効果を高めるようにすること。

指導内容や活動の取扱いの留意点



① 児童が進んでコミュニケーションを図りたいと思うような、興味・関心のある題材や活動を扱うことが大切である。

② 広く言語教育として、国語教育をはじめとした学校におけるすべての教育活動と積極的に結び付けることが大切である。

③ 児童が国語科、音楽科、図画工作科などの他教科等で得た知識や体験などを生かして活動を展開することで、児童の知的好奇心を更に刺激することにもなる。

他教科との関連を図った例



| | |
|-------|---|
| 国語科 | <ul style="list-style-type: none">日本語とは異なる外国語の音声や基本表現に慣れ親しませる活動 → 言葉の大切さや豊かさに気付かせる。 ※ 外来語の成り立ち、外来語と日本語 など |
| 音楽科 | <ul style="list-style-type: none">チャンツや歌などの外国語の音声やリズムに慣れ親しませる活動 → 外国語の音声、リズム、イントネーションなどに慣れ親しませる。 |
| 図画工作科 | <ul style="list-style-type: none">児童が作成した作品を発表活動の中で紹介する活動 → 身近な題材を活用することから、内容を理解しやすくなる。 |

※ 小学校外国語活動においては、言語形式より「意味」中心の活動に重点を置くようにする。